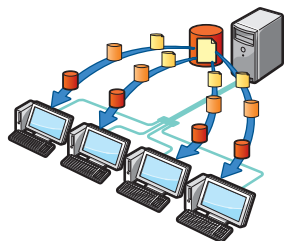


導 入 事 例

ネットワークブート方式シンクライアントシステム

ファンタシー
PhANTOSYS



情報管理センター主事
准教授 赤松 貴文さん

九州栄養福祉大学

〒803-8511 福岡県北九州市小倉北区
下津5丁目1番1号
TEL 093-561-2136

ホームページ

<http://www.knwu.ac.jp/>

九州栄養福祉大学

九州栄養福祉大学は、食物栄養系の大学の中でもコンピュータ教育が充実していることで知られています。同大学では情報処理室のリニューアルに合わせて、実習用端末のシンクライアント化を実現しました。既存のブランド力に惑わされことなく常に最善のコストパフォーマンスを追及する同大学が、シンクライアントOSとして採用したのが「Phantosys」です。



大学のIT実習を陰で支える「Phantosys」

人類社会の福祉に貢献できる人材を育成する

九州栄養福祉大学が設立されたのは2001年とまだ若い大学ながら、管理栄養士養成専門大学として、管理栄養士の国会試験合格率は常に90%台を誇っています。母体となる学校法人東筑紫学園は、発祥の筑紫洋裁女学院から数えて75年の歴史を持ち、九州栄養福祉大学や東筑紫短期大学をはじめとするさまざまな教育機関で「人類社会の福祉に貢献できる人材を育成する」という建学の精神を貫いています。

食物栄養系の大学としては全国でも有数のIT教育体制を整備した九州栄養福祉大学は、2001年の創立当初から充実した情報処理室を設置、教養科目としてのコンピュータ実習や専門科目である栄養計算実習に活用しています。この情報処理室が2008年の春を目途に、最新のIT環境に対応すべくリニューアルすることになりました。

情報処理室には学生用に40台のパソコン端末が設置されています。これらを使った実習においては、学生がどのような操作をしてもパソコン環境が変わることのないよう、各端末には環境保護ソフトを導入していました。端末の環境を一定にするという意味ではこれで問題はなかったのですが、リニューアルに際して目標とされたのが「接続された各端末をサーバー側で効率的に管理して学生の実習効果を高める」（九州栄養福祉大学・情報管理センター主事・赤松貴文准教授）ということです。



■ ブランドにこだわることなく自由な立場で良いものを選択する

情報教育を担当する赤松准教授は、これを実現する設備として、かねてから動向をリサーチしていたシンクライアントの採用を決意しました。そしてさまざまなシンクライアント技術やその効果、実績を十分に検討した上で、同大学の情報処理室にはネットワークブート型のシンクライアントOSが最適と判断しました。「端末を管理しやすくセキュリティ効果が高いというシンクライアントの効果を存分に発揮しながら、なおかつネットワークやサーバーへの負荷が少ない」というのがネットワークブート型を選択した理由です。

ネットワークブート型のシンクライアントOSにもさまざまな商品がある中、商品の入札時に赤松准教授が想定したのはA社の商品で、そのスペックが入札の基本仕様となりました。「ネットワークブート型のシンクライアントOSとしてはA社がすでにメジャーな存在であり、私が実際に操作したのもA社のみ。その他の商品については判断する材料が極めて乏しかった」とこともあり、入札各社もシンクライアントについてはA社で統一されていました。

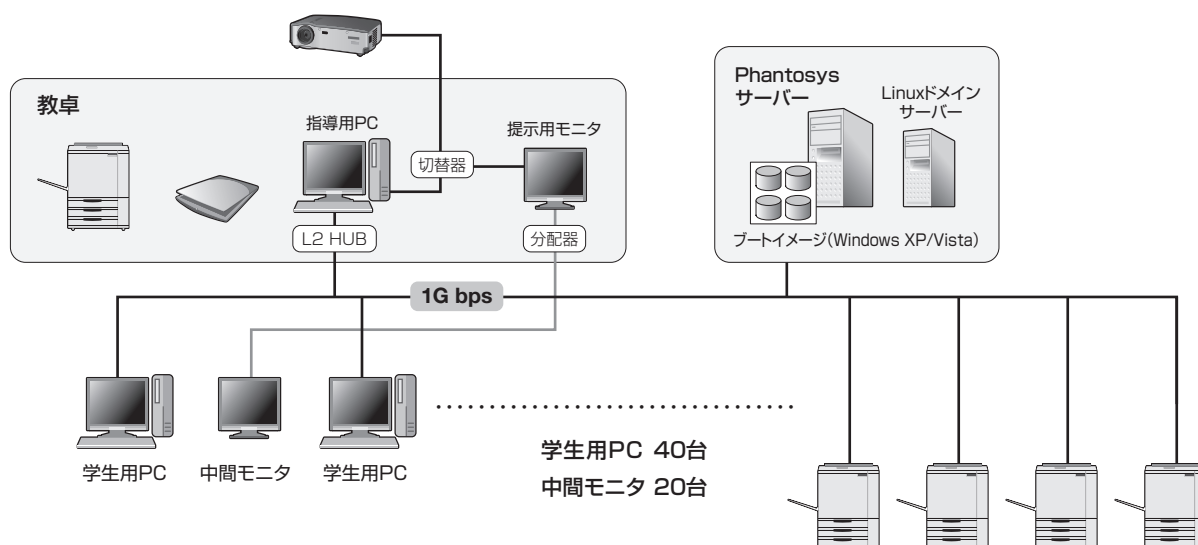
しかし入札日の前日、地元のSierであるアイコムソフトから「Phantosys」なるネットワークブート型の新商品情報を入手した赤松准教授は、この新商品に強い興味を覚えました。そこですぐに連絡してその日に商品を試用したところ、情報教育のプロの目には「使い易さと機能の両面において抜けた存在」であることがすぐにわかったということです。もともと「ブランドにこだわることなく自由な立場から本当に良いものを選択する」ことを基本とする赤松准教授にとっては格好の商品で、Phantosysの採用が決定したのは言うまでもありません。

同大学にとって Phantosysがベストであると判断した理由は、「価格、サーバー負荷、イメージ管理、メーカー対応」の4点に集約されます。

■ 価格

まず価格については、同じ機能なら安い商品が売れるものですが、ましてや機能がなくて価格が低いとあっては、これを選ぶのは当然です。一般にブランド力のある商品にはブランド料を加味した価格設定が行われますが、価格が高くてブランド商品が売れるのは「商品に信頼感があり、何か問題が生じた場合でもきちんと対応してくれるだろうという安心感を持つ」からです。この信頼と安心が、実は幻想に過ぎないことが殆どです。ユーザーも幻想であることを知りながら割高のブランド商品を選択しているのが現状で、これには、ユーザー側に最善の商品を判断する力が乏しいことに加えて、万が一トラブルが生じた際にもブランド商品であれば導入決定の責任を追及されないことなどが大きな理由となっています。つまり消極的な姿勢によるブランド商品の導入です。これに対して、九州栄養福祉大学の場合は、赤松准教授という専門家の判断を尊重するという意味で、組織として優秀な新製品を導入する土壌があったといえます。

■ ネットワーク構成図



■ サーバー負荷

サーバー負荷が少ないことについては、Phantosysに限らずネットワークブート型の大きなメリットでもあるのですが、クライアントPCのHDDをキャッシュとして利用する Phantosys では、サーバーの負荷がさらに軽減します。「一般のネットワークブート型では40台の端末を快適に作動するにはサーバーは2台あった方がよいとの話ですが、Phantosysでは1台で十分」とのこと、これはコスト面でも大きなメリットです。

■ イメージ管理

イメージ管理については、Phantosysの独壇場とも言える部分です。従来のネットワークブート方式では環境ごとにイメージファイルが必要で、これを構築する手間や使用するディスク容量がネックとなっていました。Phantosysではひとつのイメージファイル中に複数の環境を作ることが可能で、各クライアントには複数の起動ノードを割り当てることができます。「現在の実習ではさほど必要としない機能ですが、今後の実習の方向性を考える上で大きな意味を持つ機能」であるとしています。

■ メーカー対応

メーカー対応は、ユーザーにとってある意味では機能以上に重要です。ユーザーにとってぜひ修正して欲しい操作や追加して欲しい機能など、全部とは言わないまでもユーザーの声がある程度は届くのか、それともメーカーの都合を優先するのかは、ユーザーにとって大きな問題です。「一般に海外製品はユーザーの声が届き難く、ブランド力の強いメーカーではその傾向が強いのです。Phantosysも海外製の商品ですが、ユーザーの声には敏感で、その対応には誠実さを感じます」との評価で、後発メーカーとして先発メーカーを凌駕するためには当然の姿勢とも言えます。

■ 学生のコンピュータ・リテラシーを高める

Phantosysによる情報処理室のシンクライアント化を実現した結果、「その効果は予想通りで、特にクライアント管理の面で大きな効果を発揮しています」とのことです。九州栄養福祉大学の情報処理室は1教室で、これが2008年春にシンクライアント化を実現しました。東筑紫短期大学には情報処理室は4教室あり、そのうちの2教室がシンクライアント化を実現、残る2教室についても順次シンクライアント化を進める予定です。

九州栄養福祉大学のIT実習は、1年次が選択科目で、WordやPowerPointなどドキュメント作成ツールの習得に重点を置き、2年次は必修科目となり、Excelをはじめとするビジネスツールの習得が中心のカリキュラムとなっています。3年次からの専門教育になると、栄養計算など管理栄養士に必要な技術をパソコンを活用して習得します。1・2年次のIT実習は「専門過程で必須となるコンピュータ活用の基本となる操作をマスターし、専門過程へと進むための橋渡し」として位置づけられています。情報処理室は実習時間以外は学生に解放されており、充実した環境の中でシンクライアントを活用して自由にコンピュータを扱う学生の姿が目立ちます。「食物栄養に関してだけでなく、コンピュータ・リテラシーにおいてもハイレベル」という九州栄養福祉大学の学生への評価については、Phantosysも多少の役割を果たしているのかも知れません。